

変化しつつある総合情報処理センターの役割

総合情報処理センター長 武部 幹

総合情報処理センター（以下センターと略す）の役割はセンター規定第2条に

センターは、学内共同教育研究施設として、センターの計算機システムを整備運用し、金沢大学（以下「本学」という。）における教育、研究等のための共同利用に供するとともに、学術情報システム等の開発を行い、それらに関する情報処理を効率的に行うことを目的とする。

と定められています。ところが現実には、これに加え”学術ネットワークの整備運用”という大きな役割の重要部分をになっています。この2本の柱を中心に”センターは今”を概説させていただきます。

全国的な現象ですが、ダウンサイジングの進行に伴い、安価で高機能なワークステーションやパソコンが出現したため、理工系学部を中心に、センター計算機システムの利用離れが起っています（ただしセンターの利用離れではない）。これに対しセンターの計算機システムの役割は、第1に信頼性が高く、機能の高いハードウェア、ソフトウェアを備えたシステムを絶えず更新しながら運用し、利用者の便をはかることでありましょう。第2は学術の進歩に伴い発生する巨大ジョブのニーズにこたえることで、平成6年1月のシステムのリプレースの際には、ミニスーパーコンピュータの導入を計画しています。第3は大学教育の大綱化に伴い、学内で一般情報処理教育を充実する方向で検討が行われていますが、センターはそのための端末を可能な限り多く用意することをリプレースの際に計画しています。設置場所は、当面は各学部から提供して頂いている実習室ですが、センターの角間キャンパスの移転新築が実現した際には、センターの建物はおそらく現状の3倍以上広くなり、実習室もその中に設けられる予定です。第4はセンターシステムを24時間稼働し、サービスすることではありますが、現状は防災システムの不完全な点と、電力代が高価なため実施不可能であります。ただし電子メールは24時間サービスされています。防災システムの更新は現在要求中ではありますが、電力の低減については今後のVLSI技術や磁気記録技術の進歩に期待したいと思います。

第2の柱であります学術情報ネットワークの整備と運用については、まず第1に学内LANの整備と運用体制の確立であります。これについてはLAN管理運営委員会が担当されています。全国どのセンターでもその管理・運用のための人的組織の整備が問題になっており、本学でも技官2名程度の増員なしには困難であります。本学では当面ボランティアによる”LAN管理に関するワーキンググループ”が発足することになりました。第2は国内・国際・地域情報流通体制の整備であります。国内・国外の大学その他の機関とのLANの相互接続のための全国基幹ネットワークの高速化、それに接続する支線網、すなわち地域情報ネットワークの構築が全国的に問題となっています。前者につい

ては本センターは本年9月に文部省のSI (Science Information) ネットワークに加入し、国内・国際の情報交換が便利に行えるようになりました。またセンターの計算機は使わないがネットワークは大いに利用するという新しいタイプのユーザが増えそうです。後者については、本センターは先端科技大情報科学センター等と協力して、石川県における地域情報ネットワーク(大学・高専・短大・公立研究機関や図書館と2センターを結ぶ支線網)の構築を推進すべく、去る92年12月4日に連絡協議会を発足させました。

以上のようにセンターの役割は”総合情報処理センター”の名称よりも”総合情報処理・通信(あるいはネットワーク)センター”の名称にふさわしい内容に変わって来ました。急速に状況が変化し、また国内他大学と共通する課題や、互いに関連する事項が増えまして、他大学・機関との交流も増えて来ましたが、センターは人が足りない、旅費が足りない、で十分対応し切れない状況です。学長始め全学の教職員の御理解と御協力により、になっている役割にふさわしいセンターの体制が作られることを切望しています。